

# ★ オレンジ通信 ★

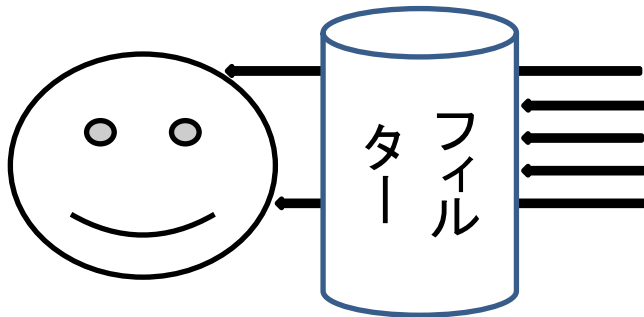
h26年3月号

少しずつ暖かくなってきましたが、まだまだ冷えますね。インフルエンザやノロウイルスもまだ流行っていますので、手洗いうがいなどの予防をしっかりとしましょう。さて、今年度のオレンジ通信では、お薬の副作用の一部について紹介しました。お薬の短所ばかり説明してきたので、「薬って。。。」「飲むのはなんだか。。。」「と思われた方もいらっしゃると思います。しかし、お薬を飲まなければ症状が再燃してしまう可能性や、悪化してしまう可能性があります。そこで、今年度最後のオレンジ通信では、お薬の大切さを紹介していきたいと思えます。

## なんでお薬が必要な？

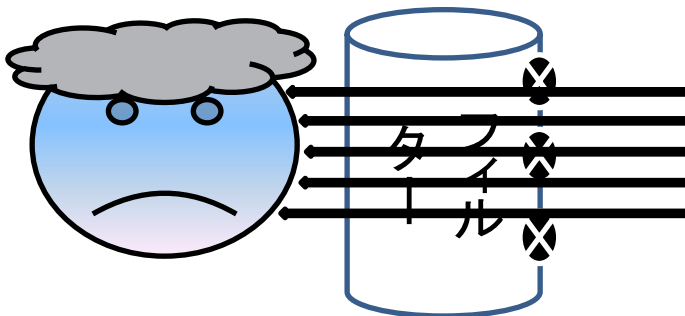
・統合失調症の症状である、幻聴などを抑える効果があります。(フィルター仮説)

### フィルター仮説



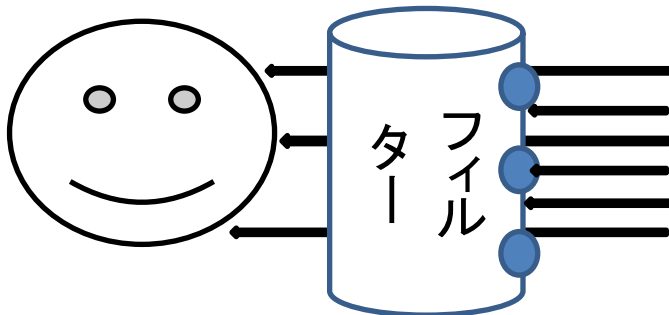
通常は脳が自動的に外部からの情報を取捨選択しています。そのため、問題なく生活が送れています。

### 統合失調症になると



統合失調症になってしまうと脳のフィルターが壊れてしまい情報を取捨選択できなくなります。そのため、妄想や幻聴が現れます。

### 服薬することで



お薬をしっかり飲むことで脳を通常の状態に近づけます。そのため、問題なく生活が送れるようになります。

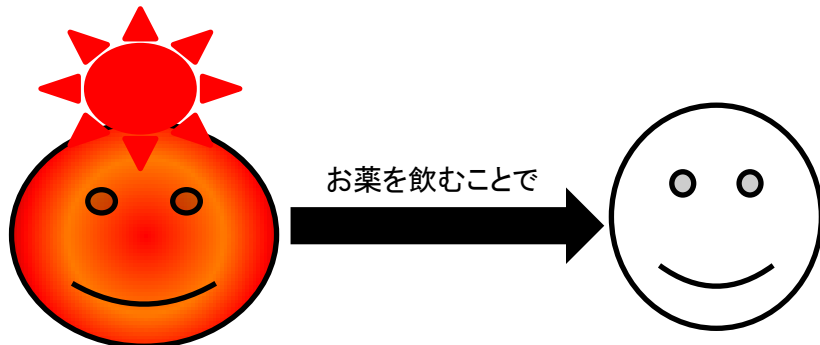
お薬は、壊れてしまった「フィルター」の機能を、回復させる働きを手助けしてくれる方法の1つとなります。そのため、当面の間はお薬をきちんと飲むことが大切です。

・うつ病のうつ状態を軽快させる効果があります。



お薬を飲むことでうつ状態を軽快させます。そうすることで、問題なく生活が送れるようになります。

・躁うつ病の躁状態を落ち着かせる効果があります。



お薬を飲むことで躁状態を軽快させます。そうすることで、問題なく生活が送れるようになります。

統合失調症同様に、うつ病、躁うつ病の方も当面の間は、お薬をきちんと飲むことが大切です。

#### 副作用について

今年度のオレンジ通信でも紹介しましたが、お薬には少なからず副作用があります。

簡単に紹介させていただきます。

- ボーっとしたり、体がだるくなる(過鎮静)
- 手が震える、体が前かがみになって小刻みに歩く(パーキンソン様症状)
- 足がむずむずする(アカシジア)
- 目が上を向く、ろれつがまわらない(ジストニア)
- 無意識に口が動く、手足が勝手に動く(ジスキネジア)
- 急に高熱が出て下がらない、汗を多くかく、脈がはやくなる(悪性症候群)
- 体重増加 ● 生理不順、乳汁分泌、性機能障害(高プラクチン血症)
- 口が渇く ● 便秘

副作用だと疑われた方は、勝手にお薬をやめたりせずに、早目に主治医と相談して下さい。  
副作用が出現しても、薬の量を調整したり、薬の組合せを変更することで、コントロール出来ます。

症状が落ち着いてくると、「薬を減らせないかな。」「飲まなくていいかな。」という考えがでてきますが焦りは禁物です。減薬が早すぎたり、飲むことをやめると、症状が再び現れてしまう可能性があります。薬には「今起こっている症状を改善する働き」と「今の良い状態を保つ」という両方の働きがあります。そのため、「症状がよくなったから薬を飲まなくてもよい」と考えず、予防のためにも続ける必要があります。 服薬の期間については主治医と相談して下さい。

薬について心配な事があれば、まずは主治医や病院スタッフに相談して下さい。